

巻頭言

代表世話人 道下 忠蔵

1991年11月2日、3日の両日にわたり、千葉市の海外職業訓練協力センターで開催された「第2回精神保健国内フォーラム」の報告書を刊行するに当たり、この会議の開催に関わった者の一人として一言ご挨拶を申し上げます。

今回のフォーラムには全国各地から、主催者の予想を上回る約600名の関係者が参加され、2日間にわたって活発な、そして熱心な討議が行われました。御多用のなかをフォーラムの趣旨に賛同され、参加していただいた各位に厚く御礼申し上げます。

関係各位にはすでにご承知の方が多いと思いますが、第1回国内フォーラムは1988年2月12、13日、国立京都国際会館で精神医療従事者団体懇談会（当時13団体で構成）の主催で開催され、精神保健法の抜本改正をめざす4項目の確認を決議いたしました。このことは当時厚生省で練られていた政・省令の作成に一石を投じたものと考えております。

この会議において、2年後を目途に第2回フォーラムを持つことも申し合わされました。同年7月から精神保健法が施行となりましたが、この法律では付則に施行後5年を目途に見直しを行ない、必要あるときは所要の措置を講ずることが定められております。

精神医療従事者団体懇談会にはさらに日本精神病院協会はじめ6団体が加わり、名称も精神保健従事者団体懇談会と変わりましたが、上途の申し合わせもあり、法見直しの時期も近づいてきましたので、第2回フォーラムを1991年秋に開催することを1990年7月の例会で決定し準備に入りました。1991年4月には精従懇と並行して運営委員会を発足させ、開催地や会議の持ち方について準備をつづけさせていただきました。

不行届きの点も多かったと反省もしておりますが、参加者各位のご協力を得て、基調報告、4つのシンポジウム、そして総括討論において5項目の確認を承認していただきました。

フォーラムの決議は代表世話人の手により厚生省および国会へ提出させていただきましたが、精従懇で協議の結果、このフォーラムにおける発表や発言の要旨をまとめて報告書を作成しましたが、この報告書が精神保健法改正、そしてわが国の精神保健医療福祉体制改善の一助になれば幸いです。

代表世話人 柏木 昭

第2回精神保健国内フォーラムは盛会のうちに無事終了した。多くの人により、様々なことが語られ、わが国の精神医療のあり方に対して、その軌道修正を迫る多くの発言がなされた。然し最も強く私の印象に残ったのは、第1日目、開会式直後のシンポジウムでの全国「精神病」者集団を代表した当事者の心からの訴えである。「安心して受けられる医療にしてください」という声は未だに私の耳から消えない。重い、胸を打つ言葉だった。来会者の大多数がこの私の思いを共有して下さるのであ

う。

来年に迫った精神保健法見直しについて、国内フォーラムとしては5点（人権、福祉、医療法、強制入院、措置入院）を中心に精神医療の改革推進を計ることを確認することが採択されたが、さらにコンパクトに表現すると治療と人権と福祉を柱に点検することになるといえよう。

さて、この3つに集約される精神医療改革の諸点のうち、最も緊急度の高いものは、任意入院者の開放処遇の実現化と、精神障害者の地域生活の保障である。入院治療に関しては、自発的入院が原則であり、病院のあり方、処遇の形態は開放が大前提である。こここのところが確立されなければ、非自発的入院者の人権の保障など決してありえない。また、地域にあっては精神障害者の生活を支援するために有効な社会資源の開発、整備とネットワークの形成が必要になる。市町村が積極的に取り組み、障害者の身近なところで、生活保障を可能にする施策が展開されなければならない。

こうした体制が整わない限り、冒頭の当事者の期待に応えることは出来ないこと明白である。

代表世話人 森山 公夫

第2回国内フォーラム（幕張）は、第1回（京都）の内容をさらに前進させ、成功裡に終ることができた。これはひとえに、金杉事務局長を中心とする若手の事務局メンバーの努力と、運営委員会に結集した関係諸団体の皆さんの熱意によるところ大である。

今回の特徴は、フォーラムの開催自体もさることながら、その準備過程も大切にしたいという立場から、運営委員会を中心に、当面する精神保健、医療・福祉の問題点を熱心に討論してにつめ、同時にその討論の輪をひろげていったことにある。

この準備過程で痛感させられたことが二つあった。

一つは、ともあれ精神保健法成立後、状況は大きく変ろうとするきざしを示し、特に保健・福祉の裾野が広がっていることにより、その領域からの新鮮な問題提起を受けたということである。

もう一つは、なんとか今の精神保健状況を一步でも前進させたいという熱意が共有され、対立点はある、前進のための協力を軸にしたいという姿勢がほぼ貫かれたことである。

こうして、第2回国内フォーラム（幕張）は、わたしたちの精神保健改革運動の、あらたな出発点たりえた、と思う。この地点から、各人がまたそれぞれの方向に、改めて前進してゆくことにしたい。